

St.Mary's College Campus Letter

MADONNA

聖マリア学院大学キャンパスレター「マドンナ」

特集

- ・学校法人聖マリア学院の看護教育開始50周年を祝して
- ・聖マリア学院のミッションに基づく
ケアの文化を創造する人材育成のための新カリキュラム
- ・看護教育開始50周年の記念すべき年に、
大学院にデータヘルスサイエンス看護学領域を開設します

Vol.

26

2023.3



はじまりの始まり

本年は聖マリア病院創立70周年、看護教育50周年の記念すべき年である。「聖マリア」という名を冠し、「カトリックの愛の精神」を理念とした。その命名由来のマリア像は、ルルドの聖母と称されるマリア像であり、百年を超す木彫りの美しいマリア像である。創設者井手一郎の父用蔵が、久留米カトリック教会の所にあったス導院というカトリックの無料診療所で、長期間診療奉仕をした御札に頂いたという。その後、このマリア像は、久留米大空襲の際も難を免れ、また病院開設直前の久留米大水害の際にも、水没した一郎の自宅を守る様に鴨井に填まっていたと伝えられている。(聖マリア病院25周年記念誌)

このマリア像にはそれとは異なる、一郎の母の伝えるもう一つの由来を背負う。我々の聖マリアのはじまりの始まりに深く関わる事柄である。1549年、ザビエルによりキリスト教(カトリック)が伝えられた。九州ではアルメイダ修道士により西洋式病院が開かれ、これに始まる組織的看護もミゼリコルディアの組(慈悲の組)として長崎で華開いた。キリシタン大名も生まれ、キリスト教は隆盛を極めた。しかし、その後の秀吉や家康の禁教令により、17世紀以降は宗教上の迫害という受難の時代が約250年間続いた。



献堂時の大浦天主堂

日本の近代国家の明治が近づくと共に来日したローカーニュ神父は日本人神父の養成を始めた。司祭館の屋根裏部屋に数人の少年を住ませラテン語学校として神父養成を始めた。この数人の神学生の中に、一郎の母方の祖父(父方)と



聖マリアの名前の由来のマリア像

く慶応元年(1865)、長崎大浦に創建された大浦天主堂において世界史上極めて稀な出来事が起こった。信徒発見と呼ばれるものである。

この時、一郎の祖父(母方)とその家族も浦上のキリシタンであった。はじまりの始まりであった。信徒発見後、プチジャン神父と共に来日したローカーニュ神父は日本人神父の養成を始めた。司祭館の屋根裏部屋に数人の少年を住ませラテン語学校として神父養成を始めた。この数人の神学生の中に、一郎の母方

祖父・村上喜八(後に内藤盛と改名)がいた。不思議なことに、遠く一郎の父方の住む筑後の今村地区において、このローカーニュ神父の指示による第二の信徒発見が実を結んだ。浦上(長崎)に続き、遠く今村(筑後)においても信徒発見が為されたのである。創設者井手一郎の両親の結びつきへの導きとなる浦上(母方)と今村(父方)という熱心な2つのキリシタンの里が結びついたのである。

宗教迫害の約250年もの間、信仰を守り通した我が国の信徒の発見は、ローマ時代のキリスト教弾圧の際にも例がなく世界史に類を見ず、ヨーロッパ社会

のキリスト教国を熱狂させた。しかし、再び忍び寄る宗教迫害の嵐の暗雲が吹き荒れた。我が国最後の宗教迫害である。慶応3年(1867)の浦上四番崩れが始まり、浦上村総流罪と続いた。一郎の祖父・村上喜八は神学校に匿われたが、その家族は鳥取に流罪。兄は船中にて死亡。母と3歳の甥は流罪先で殉教。姉と2人の弟だけが生還した。この間、神学生であった一郎の祖父達はマレーシアのペナンの神学校に退避させられた。熱病で亡くなるものもいたが、迫害が止んだ明治5年(1872)、8名が横浜に帰国した。一郎の祖父は国籍を失っていたので内藤男爵家に養子に入り内藤盛と改名した。

この時、内藤盛はマレーシアから帰国する際に、上海で我がが聖母マリア像を入手したという。はじまりの始まりである。(この像を託された内藤盛の長女・井手ナカ二郎の母の証言)尚、内藤盛は長崎に戻った後、信徒発見により数多く出現したキリシタンの子弟教育の為、私立学校でのカト

リック教育を行う校長を命ぜられ、神父への道は叶わなかった。さて時は流れ、筑後のキリシタンの地・今村の大刀洗に育った一郎の父用蔵は、カトリック伝道の勉強の為に長崎に赴くも、出身地大刀洗の村長他の支援を受けることになり、長崎医学専門学校(現・長崎大学医学部)で医師の道に進む。筑後に戻る前に、浦上のキリシタン家庭に育ち官立の東京女子高等師範(現・御茶ノ水女子大学)卒の内藤ナカと結婚する。浦上(長崎)のキリシタンと、大刀洗(今村)のキリシタンの初めての婚姻例である。聖マリアはキリシタン殉教者の血を受け継ぐこととなった。木彫りのマリア像を託された創設者井手一郎の母が伝えるもうひとつの由来である。我々の聖マリアのはじまりの始まりとなった。



はじまりの始まり：中央の男児が創設者・井手一郎
前列左：祖父(内藤盛)、一郎、祖母
後列左：妹、父(用蔵)、母(ナカ・盛の長女)

リック教育を行う校長を命ぜられ、神父への道は叶わなかった。さて時は流れ、筑後のキリシタンの地・今村の大刀洗に育った一郎の父用蔵は、カトリック伝道の勉強の為に長崎に赴くも、出身地大刀洗の村長他の支援を受けることになり、長崎医学専門学校(現・長崎大学医学部)で医師の道に進む。筑後に戻る前に、浦上のキリシタン家庭に育ち官立の東京女子高等師範(現・御茶ノ水女子大学)卒の内藤ナカと結婚する。浦上(長崎)のキリシタンと、大刀洗(今村)のキリシタンの初めての婚姻例である。聖マリアはキリシタン殉教者の血を受け継ぐこととなった。木彫りのマリア像を託された創設者井手一郎の母が伝えるもうひとつの由来である。我々の聖マリアのはじまりの始まりとなった。



学長 井手 三郎



目次

1 巻頭言
はじまりの始まり

2 特集

- 学校法人聖マリア学院の看護教育開始50周年を祝して
- 聖マリア学院のミッションに基づくケアの文化を創造する
- 人材育成のための新カリキュラム
- 看護教育開始50周年の記念すべき年に、大学院にデータヘルスサイエンス看護学領域を開設します

3 CAMPUS TOPICS

- 藤堂省教授(寄附講座/移植医療研究部門)がトーマス・スティーヴル賞を受賞!
- 感染防止対策を行い開催した入学式
- 新入職員紹介
- 新入生向け聖マリア学院大学特待奨学金案内です
- 本学大学院に現役進学する4年生の方への奨学金案内です
- 令和4年度特待生表彰式・認定証交付式を行いました

4 お知らせ

- 令和4年度 科学研究費助成事業採択者一覧
- 学校法人聖マリア学院 令和3年度決算皆様からのご支援、ありがとうございます(寄付金受入のご報告と御礼)

聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。



聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力/専門職としてのケアリング/ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスター・カリスト・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力に連携して実践している「国際看護学」の教育

学校法人聖マリア学院の 看護教育開始50周年を祝して



学院長 井手 信

世界中の人々がコロナ禍の終息とともに春の季節を謳歌している今日この頃、本学においてもまもなく令和5年度の新入生をお迎えする季節となりました。

令和5年度は聖マリア学院の設立母体である聖マリア病院の開設70周年、そして、聖マリア学院看護教育開始から50周年の記念すべき年にあたります。これまでの本学院の教育に携わっていただきました多くの方々へ感謝の意を表しますとともに、今後も変わることなく建学の精神に基づく看護教育を実践し、次世代に継承していくことができますよう祈念致します。この特別な年の喜びを新入生の皆様、在学生の皆様方と分かち合い、共に聖マリア学院のこれからの50年に向けての新たな一歩を進める年に致しましょう。

昭和48年（1973）、聖マリア高等看護学院は聖マリア病院付属の看護学校として現在の久留米市津福本町の地に開設されました。日本の高度経済成長期の頃です。高度成長は

社会のあらゆるところに歪みを生じ、また、医療の分野における人々の疾病構造の変化も著明でした。このような社会の中で「カトリックの愛の精神」に基づく、すべての人のいのちの尊厳を守る医療、ケアの実践とその質の向上を目指して

聖マリア学院の看護教育が開始されました。隣接する聖マリア病院の発展に伴走しつつ、さらに保健婦、助産師養成課程が新設され、病院内での保健教育、地域との連携さらには国際的な視野のもとに活躍できる保健師の養成を設ける目的とされました。私立の高等教育機関で保健師教育を開始したのは本邦では本学が初めてのことです。また、胎児、新生児のいのちが軽んじられる日本の文化背景の中でいのちの尊厳を重視したカトリック倫理に基づく助産教育・母子教育が必須であることが助産師教育課程設置の目的でした。昭和61年（1986）には医療の多様化、グローバル化に対応し、さらなる看護教育の質の向上を目指して聖マリア学院短期大学が開学。その後20年間の短期大学

及び専攻科教育の後、平成18年（2006）には短期大学を改組発展する形で聖マリア学院大学が開設されました。4年後には大学院看護学研究科修士課程を開設し現在に至っております。

聖マリア学院大学の教育の特色であるいのちの尊厳を尊重した生命倫理教育、キリスト教的人間観に基づくロイ適応看護モデルを基盤とした看護教育、および国際看護教育は聖マリア学院の設立理念「カトリックの愛の精神」に基づく50年の看護教育の歴史の中で育まれ現在に継承されているものです。本学では大学院の第1回修了生輩出を見て後教育の新たな展開を目ざして2013年より職員の理念教育を強化致しました。それらをもとに新カリキュラムを構築、昨年度より施行しています。人格の成熟と看護実践者としての成熟を目指す新カリキュラムでの教育を受けた本学の学生が地域におけるケアの文化の創造に寄与できるであろう近い将来を楽しみにしております。

聖マリア学院のミッションに基づく ケアの文化を創造する 人材育成のための新カリキュラム



看護学部長 日高 艶子

聖マリア学院大学看護学部では、2022年度の入学からケアの文化を創造する人材育成のための新カリキュラムによる教育がスタート致しました。

本カリキュラムは、学生一人ひとりがコミュニティを構成する人々とともに協同・連帯し互いにエンパワーされ、誰もが地域の活性化を促すケアの文

化の促進者と成ることを目指すものです。これは、50年前に聖マリア学院がこの地に開設されたときからのミッションとも言えます。カトリックの愛の精神を建学の精神とする本学においては、暖かい開かれたところを持ち、常に地域の人々と共に協同・連帯して互いを支え合い、よりよく生きることを求められてきました。新カリキュラムにおいては、50周年を迎えるにあたり改めて本学のミッションを確

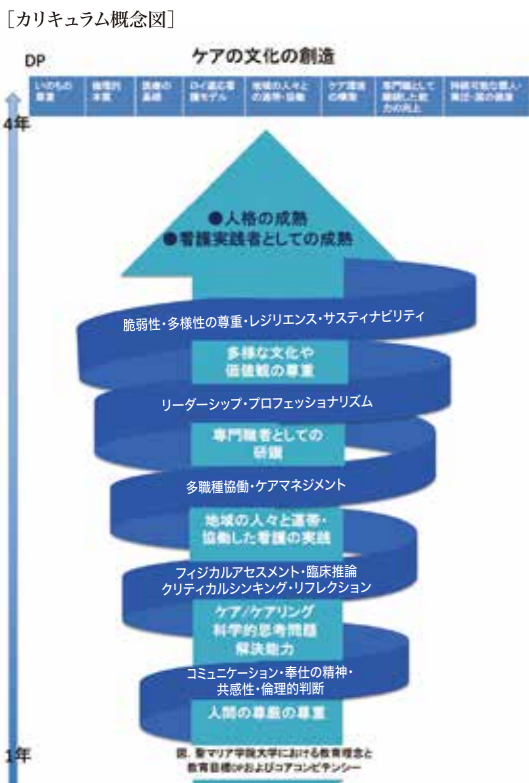
認し明文化致しました。

新カリキュラムは、日本看護学教育評価機構によつて、教育理念・教育目標に基づく教育課程の枠組み、教育課程における教育学習活動、教育課程の評価と改革、入学者選抜の全ての評価基準において「適合」と評価されましたことを皆様にご報告いたします。

特に、建学の精神である「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の尊重、人間の尊厳を尊重した地域におけるケアの文化を創造する人材育成の方針・教育理念・教育目標に整合性があること、カリキュラムの中核にロイ適応看護モデルを据え、4年間を通して段階的に講義から実習まで貫いた看護学学士課程の教育が行われていること、カトリックの愛の精神の理念を共にする実習施設である聖マリア病院との協同と連帯による教育が高く評価されましたことは本当に嬉しいことでした。

私たちは、カトリックの愛の精神を基盤とした聖マリア学院の看護学教育50周年の歴史性と時間性から聖マリア学院が看護学教育を行う意義について50周年を迎えるこの時に改めて熟考し、聖マリア学院の未来を想像し共に創造致しましょう。

喜びと感謝を込めて。



看護教育開始50周年の 記念すべき年に、 大学院にデータヘルスサイエンス 看護学領域を開設します

新たな2023年が幕を開けました。聖マリア学院がこの地に誕生して50年です。また、聖マリア病院が地域医療の礎を築かれた最初の一歩から70年の記念の年でもあります。

少子高齢化の進展や医療技術の高度化、在宅医療への移行など、医療を取り巻く環境が大きく変化している中、病院や地域社会において質の高い看護サービスへのニーズは高まっています。こうした社会背景を踏まえ、本学大学院では広い視野に立った科学的方法論に基づく学識を修得し、看護分野における研究能力や高度な専門性など看護に必要な能力を養うことを目的としています。学部や実践現場で蓄積された

看護学に関する成果を深化させ、看護の発展に

寄与する、時代のニーズに応えた専門的な看護人材の育成を目指しています。この記念すべき年、2023年4月より本学大学院にデータヘルスサイエンス看護学領域が誕生します。わが国が進めるデータサイエンス人材育成の先陣を切り、看護学領域では全国に先駆けデータヘルスサイエンス看護学領域を開設します。今後はビッグデータ等データヘルス分析により、科学的な看護実践・看護介入・評価を進めていける人材育成と環境づくりを目指します。本学大学院で、カトリックの愛の精神に基づき、看護実践や教育の質をさらに向上させるための理論や

科学的方法論を共に探求し、皆様の実践知や

経験値を理論化し、可視化していきましょう。大学院の学びを通して、教員や大学院生等仲間との出会いは一生の財産になることと思います。最後に、新型コロナウイルスによる世界的パンデミックにより、この3年間は、地域国際貢献活動の制限を余儀なくされてきました。皆様も一人ひとり大変な状況であったことと思います。しかし、ピンチはチャンス、逆風こそは新たな力を生む原動力にもなります。この苦難を乗り越えてきたことで、2023年は、皆様とともに新たなチャレンジをし、飛躍の年となることを心よりお祈りしています。



看護学研究科長
眞崎 直子

トーマス・スターツル賞

藤堂省教授（寄附講座／移植医療研究部門）が トーマス・スターツル賞を受賞！

2022年5月、藤堂省寄附講座教授が移植医療と免疫抑制の分野で多大な貢献をした研究者や外科医に贈られる米国ピッツバーグ大学の「トーマス・スターツル賞」を受賞しました。日本人の受賞は初めてとなります（賞についての詳細は谷口聖マリア病院長の紹介文をご参照ください）。藤堂教授は「日本の移植医療はまだ道半ばであり、きちんと移植が受けられる社会の実現に向けて頑張りたい」としています。この志に基づき、我が国が「助かる命を、助けられる国に」なるために、まずは久留米・筑後地区における急性期終末期医療や移植医療に関する臓器提供と臓器移植の知識の普及・啓蒙活動と実践を行う「久留米筑後地区移植医療推進協議会」を設立し活動を行っています。

【藤堂教授略歴】

- 1972年 九州大学にて医学博士号を取得
- 1980年 スターツル博士と出会う
- 1984年 渡米：ピッツバーグ大学に赴任
13年間で臓器摘出400例以上、
肝臓移植1,000例、小腸移植100
例に関わり、移植後の拒絶反応の
抑制に欠かせない免疫抑制剤
「タクロリムス」の開発にも携わる。
また、多くの移植医を養成。
- 1997年 北海道大学第一外科教授
(現 北海道大学名誉教授)
- 2013年 聖マリア学院大学寄附講座
(移植医療研究部門)教授・聖
マリア病院研究所長(至・
2023年3月)



=Photo by Joe Appel



=Photo by Joe Appel



=Photo by Joe Appel

この度、聖マリア学院大学の藤堂省教授が、「トーマス・スターツル賞」を受賞されました。このトーマス・スターツル賞は毎年、世界の移植医療の分野で多大な貢献をした研究者や医師に贈られる功労賞で、1996年に米ピッツバーグ大学が「臓器移植の父」と呼ばれる故トーマス・スターツル教授にちなんで作られた賞で今回が25回目になります。受賞者の中には2人のノーベル賞受賞者がいる大変名誉ある賞で、日本人としては初めての受賞となります。Dr. Tomodaはピッツバーグ大学で13年間、スターツル教授の下で世界の移植医療に貢献されました。昼はのべ3000例を超えるイヌを用いた移植研究、夜はのべ1000例を超えるヒトの肝移植・小腸移植・全臓器移植、sleepless EMBの愛称で昼夜を問わず移植医療に没頭され、ピッツバーグ大学が世界の移植医療のメッカとなった礎を作られました。当時日本を含めた世界中から、多くの移植外科医がDr. Tomodaの手術見学にピッツバーグに行きました。その後北海道大学で16年間、日本における臓器提供の推進、生体肝移植、免疫寛容の臨床ならびに研究に尽力されてきました。この25年間Dr. Tomodaの背中を見てきて「ブレない信念を持ち、自分が正しいと思うことをやり続けること」の重要性を学びました。



聖マリア病院長
谷口 雅彦

【注記】記事中の藤堂教授の役職名は、本誌発刊時のものです。

令和4年度 入学式

感染防止対策を行い
開催した入学式

令和4年4月4日(月)、令和3年度入学式が挙行されました。本年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、席間の間隔を十分取り消毒を徹底するなどの感染防止対策を行い、本学体育館にて開催することができました。

本年度は、看護学部看護学科99名、専攻科助産学専攻10名、大学院看護学研究科4名の新入生を迎えることができました。



新入職員紹介

【氏名】倉成 由美 【職位】講師(精神看護学領域)



時代ともに多様化・複雑化しているところの健康問題、皆さんも困難を感じた経験がないでしょうか。人がこころの健康を維持・増進するために、こころに不調を感じている人が乗り越えていくために、私達ができる看護を皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。

【氏名】有働 由樹 【職位】助教(基盤臨床看護学領域)



令和3年度まで臨床看護師として勤務しておりました。循環器疾患を持つ方が健康を維持し、その人らしく生活できるための支援の探求と、学生の皆さんが個々の持つ力を伸ばし、発揮できるような教員になりたいと考えています。よろしくお願ひします。

【氏名】岡 さつき 【職位】助手(基盤臨床看護学領域)



令和4年3月まで聖マリア病院で看護師として勤務しておりました。母校でもある聖マリア学院大学で、助手として着任することになるとは、卒業時には想像していませんでした。母校で看護教育に関わることができ大変うれしく思ひます。学生と丁寧に向き合いながら、一緒に学んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

【氏名】加藤 美由希 【職位】助手(基盤臨床看護学領域)



令和4年4月から開始された病院・学院の共同プログラムであるユニフィケーションで、聖マリア病院から来ました。学生さんたちと共に学び、様々な活動を通して看護というものを見つめていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

特待生表彰式・認定証交付式

令和4年度 特待生表彰式・
認定証交付式を行いました

今年度は新型コロナウイルスの状況を鑑み、7月と12月に分けて特待生表彰式認定証交付式が開催されました。看護学部1年生から4年生までの11名が選出され、表彰式・認定証交付式では、井手三郎学長より、ひとりひとりに賞状ならびにお祝いと激励のことばが贈られました。特待生からは、謝辞と今後の抱負が語られ、これからの学びへの気持ちを新たにされた様子がうかがえました。



召命(Saijō)

いのちの奉仕者として心新たに

「いのちの奉仕者」へと招かれている人々、特に4月に入学した看護学部1年生とともに、1年生のために祈るひとときを本学では「召命のつどい」と名付け、毎年10月に執り行っています。

今年度は3年ぶりに対面での開催となりました。後期初日である10月3日に看護学部1年生全員が揃い、自分がいたっている「いのち」の恵みに感謝するとともに、他者のために自分を生かす「カトリックの愛の精神」のもと看護の道を心新たに歩み始めました。



修学支援制度

新入生向け
聖マリア学院大学
特待奨学金案内です

- 【対象者】当該年度の一般選抜(前期)を受験し、**優秀な成績を修めた者**。
- 【採用候補者数】10名程度
- 【給付金額期間】給付金額・年間20万円
給付期間…4年間 **計80万円**
- 【給付方法】後期授業料より減免

入学後の成績が優秀な場合は、在学生向けの特待奨学金と重複受給することができます(半期授業料相当額、または半期授業料相当額の半額:1年間)。

●1年次に優秀な学内成績を収めた場合(首席)の支給(免除)金額例:
20万円(新入生特待)+68万円(在学生特待)=88万円

※学校推薦型選抜等で合格し入学手続きを完了している場合は、一般選抜(前期)を受験しても対象とはなりません。 ※採用候補者には合格通知に関係書類を同封します。 ※特待奨学生に相応しくないと判断される事由が生じたときには、資格を喪失し、奨学金の返還を求められることがあります。

お問い合わせ先/聖マリア学院大学 入試事務室 TEL 0942-35-7271(代表)

本学大学院に現役進学
する4年生の方への
奨学金案内です

- 【支給資格】3年生までの必修科目GPAが3.0以上、もしくは卒業時までの必修科目GPAが3.0以上の者。
- 【支給金額】年間授業料の半額
- 【支給期間】修業年限(通常2年間)

学納金	区分	入学時納入金*	後期納入金	次年度以降納入金(年額)
本学出身者 通常	入学金	—	—	—
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	525,000円	1,050,000円
奨学金 適用後	入学金	—	—	—
	授業料	425,000円	—	425,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	100,000円	625,000円

*本学出身者は入学金が免除となります。

お問い合わせ先/聖マリア学院大学 入試事務室 TEL 0942-35-7271(代表)

学院祭

好評を博した対面開催の学院祭

学院祭実行委員長、副委員長を努めさせて頂きました兼行絢音、武藤蒼依です。今年度の学院祭は3年ぶりの対面での開催となりました。全く情報がない中でスタートとなり、右も左も分からない状態で大変でしたが、実行委員のメンバーや多くの先生に支えて頂き無事成功することが出来ました。学院祭が無事に終わり、多くの人から「楽しい模擬店が多くて回る時間が足りなかった」「楽しい企画がたくさんだった」「楽しい有難い言葉を頂き、学院祭を開催する身としてはとても嬉しい限りでした。来年の学院祭実行委員の皆さんも大変だとは思いますが、とても素晴らしい経験となると思うので、メンバー全員で楽しい学院祭を作り上げてください。応援しています！」



クリスマスのつどい

オンライン開催
「クリスマスのつどい」

聖マリア病院をはじめ聖マリアグループでは、合同クリスマス祭として、病棟でのキャンドルサービス等で毎年クリスマスのお祝いをしています。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で対面の実施が困難となっています。そのような状況の中、本学学生やグループ施設の方にお集まり頂き、オンライン「クリスマスのつどい」を12月24日に開催しました。このつどいではクリスマスの思い出等を分かち合い、聖書のイエス・キリストの降誕の物語に耳を傾けました。本学の卒業生や聖マリア病院スタッフ、そして聖マリア病院チャプレンであるジュゼッペ神父様からのクリスマスメッセージを拝聴したのち、神父様から「派遣の祝福」をいただき、クリスマスの喜びのうちにつどいは終了しました。クリスマスへの喜びは、インマヌエル、わたしたちとともにいられる神を迎えた喜びです。参加された方々を通して、世界中のすべての人にこの喜びが広がっていきますよう願っております。



令和4年度学位授与式・修了式

新たな門出を祝う
学位授与式・修了式

令和5年3月4日(土)、令和4年度学位授与式・修了式が挙行されました。本年度は感染症対策を行い、3年振りに保護者の方ご列席のもと実施することができました。看護学部看護学科107名、専攻科助産学専攻10名、大学院看護学研究科3名が本学を旅立ち、新たなフィールドへと歩み出しました。



協定締結

ローマ教皇庁「バンビノ・ジュエズ小児病院」との協定締結

本学では聖マリア病院とともに、イタリアのローマ(バチカン市国)にある「バンビノ・ジュエズ小児病院(Ospedale Pediatrico Bambino Gesù)」との国際交流協定を締結することとなり、2022年11月29日、ローマと日本とをオンラインで結んで「協定式」が行われました。

同病院は、ローマ教皇庁管下の小児病院として、150年の歴史ある高度専門医療機関で、国際的にも世界各国からの子どもたち、またウクライナから戦火を逃れてきた子どもたちの受け入れをはじめとした医療支援、奉仕活動を推進されています。

●今後の主な活動項目(協定書より)

- ①カトリックの理念に基づく生命尊重及び倫理規範に関する協力
- ②教育・研究・学術活動に関する協力
- ③各機関の職員による保健・医療・介護・福祉分野の包括的交流事業に関する協力
- ④アジア諸国・地域における保健・医療・介護・福祉分野での共同支援に関する協力
- ⑤その他、カトリック諸団体との連帯等、広く福音宣教に資するものとして各機関が合意した活動に関する協力

※本協定締結につきましては、次号以降、本誌にて特集を組む予定です。



令和4年度オープンキャンパス

多くの方々にご参加頂いたオープンキャンパス

本年度は7月、8月、9月、3月に5回の開催となりました。前年度開催分までは新型コロナウイルス感染症拡大のためZoomによるオンライン開催を基本としておりましたが、本年度より感染症対策を徹底し、本学の来校開催と致しました。参加人数の多い夏開催分は午前・午後の1日2回開催とし、1回あたり50組(保護者1名まで)の人数制限を設けての実施となりましたが、

にもご参加頂き、本学の教育内容や学修環境に理解を深めていただきました。参加された方からは、「先生方や先輩方のお話を聞いて入学したいと強く思いました」「大学の理念や方針についてしっかり理解できました」「雰囲気がとてもよく、学修環境もしっかり整っていると感じました」等の感想を頂きました。

延べ242名の方にご参加頂き、学部長や学生の講話、模擬授業、キャンパスツアー、各種相談などのプログラムを体験されました。特に模擬授業で実施致しました看護シミュレーション(デモンストラーション)では、自身の将来像を具体的に描くことができたようです。また、130名以上の保護者の方



令和4年度 科学研究費助成事業 採択者一覧

本学では、教育への還元を前提とした各専門領域における学術研究推進方策の一環として外部研究資金の獲得を推奨しているところ
です。令和4年度の外部研究費(科学研究費助成事業)に関する採択状況については下記のとおりです。

○研究代表

研究種目[12件]	研究課題名	代表者名
基盤研究C	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	眞崎直子
基盤研究C	男性不妊外来における当事者への心理的支援プログラムの構築	井口亜由
基盤研究C	高齢者の介護購買力が家族介護者の仕事と生活に与える影響	本田歩美
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	石本祥子
基盤研究C	ウガンダ難民定住地における女性を対象とした暴力の実態調査	秦野環
基盤研究C	若年女性の妊孕性に関する意思決定支援に向けた看護基礎教育プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究C	都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価	眞崎直子
基盤研究C	自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが中堅前期看護師の看護実践力に及ぼす影響	鶴田明美
若手研究	多様性をいかに病棟師長のダイバーシティ・マネジメント	近末清美
若手研究B	介護老人福祉施設におけるPDアプローチによる感染対策効果の検討	渋谷暁春
研究活動スタート支援	地域で暮らす統合失調症者のコロナ禍における福祉就労支援体制基盤づくりに関する研究	倉成由美
研究活動スタート支援	男性不妊当事者の求める心理的支援の実態—心理的支援体制の構築を目指して—	井口亜由

○研究分担

研究種目[14件]	研究課題名	分担者名
基盤研究B	エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発	日高艶子
基盤研究B	特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発	日高艶子
基盤研究B	実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究B	長年に渡る戦争による反復的Trauma体験が後年の心身に及ぼす影響に関する調査	秦野環
基盤研究C	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	田中貴子
基盤研究C	男性不妊外来における当事者への心理的支援プログラムの構築	桃井雅子
基盤研究C	男性不妊外来における当事者への心理的支援プログラムの構築	龍聖子
基盤研究C	介護職員として働きながら親を介護している多重介護者のストレスマネジメントの実践	本田歩美
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	日高艶子
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	小浜さつき
基盤研究C	看護学生の自己調整学習の特徴—「自ら学ぶ力」を育成する方略の探索—	鶴田明美
基盤研究C	労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連QOLとの関連	眞崎直子
基盤研究C	都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価	田中貴子
基盤研究C	新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成	眞崎直子

第5回「コロナ禍をよりよく生きる」
— ピーター・トアイ神父様をお迎えして —



聖マリア学院大学地域・国際連携センター 小浜さつき



聖マリア学院大学では、毎年「よりよく生きる」をテーマとして市民の皆様を対象とした公開講座を開催しております。2023年3月18日(土)に、「コロナ禍をよりよく生きる」というテーマで本年度最後の公開講座が開催されました。本年は、講師として、聖ドミニコ修道会、カトリック福岡教区箱崎教会のピーター・トアイ神父様にご講演をお願いしました。ピーター神父様は、ベトナム出身で、カトリック久留米教会の



ピーター・トアイ神父様

ベトナム青年の皆様活動を精力的にご支援なさっています。昨年9月に、本学井手信学院長のご紹介により、ピーター神父様に公開講座をご依頼させていただきました。その後、神父様は10月よりローマへ活動の地を移されましたが、継続してご連絡させて頂き、今回、ローマからオンラインで講座を中継させて頂くことができました。また、本学の公開講座会場には、聖マリアヘルスケアセンターで看護師として勤務されている大阪聖ヨセフ宣教修道女会(所属のシスター！モニカ・タン・ソア氏、久留米市内で介護福祉士として



シスター・モニカ・タン・ソア氏とヨセフ・グエン・バンナム氏

勤務し、ベトナム青年共同体的リーダーとして活動されるヨセフ・グエン・バンナム氏にお越し頂き、「コロナ禍をよりよく生きる」をテーマにご講話を頂きました。さらに、ベトナム青年の会の皆様から、自ら作詞作曲された共同体の歌を歌って下さいました。公開講座の時間帯はローマの現地時間で早朝5時半でしたが、神父様はコロナ禍でも他者のために愛を持って生きる事の大切さ、今この時を大切に生きていく事の大切さなど力強くメッセージをお送りください。心温まるご講演でした。また、ソアシスター、ナム



ベトナム青年会の皆様

さんベトナム青年の皆様が毎日生き生きと奉仕の精神をもって活動される姿に、参加者の皆様とともに感動を共有できた実りあるひと時となりました。次年度も、「よりよく生きる」というテーマに基づき、市民の皆様とともに充実した公開講座となるように企画運営して参りたいと考えております。今後ともご支援ご協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

皆様からのご支援、ありがとうございます

～寄付金受入のご報告と御礼～



聖マリア学院大学では公教育を担う看護大学として、広く皆様方からのご支援を頂きながら、大学の運営を行っております。これまで、図書館棟新築工事等の節目事業、また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への経済的支援事業等に際し、寄付金を有効に活用させていただきました。今後も、教育研究環境の一層の充実のため、引き続き皆様方のご支援をお願い申し上げますとともに、これまでのご厚情に対し、改めて感謝の意を表し、寄付者ご芳名を掲出させていただきます。

<2008年(平成20年)3月～2022年(令和4年)7月 寄付受入分>

個人様 (敬称略、順不同 / 在学生ご家族、同窓生、役員、教職員他)

赤星由美子	浅野由美子	阿南良子	鮎川恵子	荒巻初子	有吉浩美	家入留美子	石井千代	石橋喜子
石本直子	石丸良恵	井手三郎	井手信	井原明美	井原伽奈子	今田登代子	入部久子	碓井知美
宇山由里子	浦美穂子	江口須賀子	江越美穂	大石利香	大楠綾子	大津山彩	大野千代美	大谷文女
小浜さつき	片山慶子	勝木志保子	加納由美	河上裕美	河口喜代美	川崎和子	河田淳子	川崎育子
川原洋子	川村千鶴	北川英治	木下まさみ	草野圭子	草柳美雪	櫛間睦子	神代明美	神代実穂
神代由利子	倉八ひとみ	栗山由美子	古賀ヒロミ	古賀由紀	古賀み子	後藤薫	小西逸代	近藤由紀
坂口由美	坂本由貴	佐野美和子	猿渡とも子	澤田美紀	重留万希子	志津志帆	柴戸美奈	柴崎祥子
柴田公子	下川一江	下川紀子	下宮夕香	城後鈴美	白土由美子	末吉良美	杉山秀彦	鈴木良子
駿河崎房子	世登亜貴奈	外本こずえ	高倉幸子	竹原明子	田崎美穂子	田中千恵美	田中道代	田中洋子
近末清美	尋木彦次	鶴田明美	東郷麻衣子	中川武子	中小田千鶴子	中島成子	中島千壽子	中島由希
長友奈央	中野秀子	中ノ森美知子	中山和道	永松雄一郎	中村京子	綿島悟子	西坂美佐	西村弘子
西山かおり	布村美江	野上幸子	野上裕子	野田利子	野田豊美	橋口ちどり	橋本ふさ代	橋本陽子
花田千秋	馬場絹代	馬場智子	濱崎佐智恵	浜崎みと子	原田加代子	原田芳枝	原槇しづか	日高艶子
平田和美	広下智絵	福永仁美	福元洋子	福山雅子	藤木万莉	本浄尋子	牧山幸二	前本武徳
松尾真美	松尾美香	松隈千代美	松原富士子	松村ひろの	松本昌子	溝口恵美	三河さやか	三苫香代子
藁田ヒロミ	宮崎務	宮崎百合子	村岡健次	本松芳子	桃井雅子	守涼子	森山百合子	安岡智美
柳本朋子	山内しげ子	山岸寿子	山下美幸	山田佐恵美	山田牧子	山口智恵子	山口文子	矢野正子
湯川武	吉富久美子	龍聖子	涌井幸江	渡邊千代子	令和2年度卒業生有志	同窓会有志	他・匿名	

個人様からの寄付金受入れ総額 **24,159,520円** (2008.3～2022.7累計)

法人様 (敬称略、順不同 / 地場企業、関係諸機関・団体等)

株式会社アド福岡	株式会社九州AV	株式会社九州神陵文庫	株式会社九州総合ユニフォーム
九州ビルサービス株式会社	廣告社株式会社福岡支社	秀栄建設株式会社	新生ビルメンテナンス株式会社
株式会社スギヤマ	第一警備保障株式会社久留米支社	株式会社筑邦銀行	戸田建設株式会社九州支店
株式会社成田美装センター	株式会社西日本企画サービス	日商保険コンサルティング株式会社	橋本事務機株式会社
福岡医療関連協業組合	富士ゼロックス福岡株式会社	社会医療法人雪の聖母会(聖マリア病院)	他・匿名

法人様からの寄付金受入れ総額 **24,750,000円** (2008.3～2022.7累計)

寄付金に関するご照会・お申込

聖マリア学院大学 募金事務局
〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422
TEL 0942-35-7271 (代表)



学校法人聖マリア学院 令和3年度決算

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類及び事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会・評議員会での承認を経て、財務状況並びに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。



学校法人聖マリア学院 令和3年度決算 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

「貸借対照表」の概要

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	4,479,027	4,477,106	1,921
流動資産	2,154,795	2,101,244	53,551
資産の部合計	6,633,822	6,578,350	55,472
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	234,824	232,585	2,239
流動負債	184,498	184,917	△419
負債の部合計	419,322	417,502	1,820
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	6,406,873	6,444,163	△37,290
第1号基本金	6,093,673	6,130,963	△37,290
第2号基本金	140,000	140,000	0
第3号基本金	101,200	101,200	0
第4号基本金	72,000	72,000	0
繰越収支差額	△192,373	△283,315	90,942
純資産の部合計	6,214,500	6,160,848	53,652
負債及び純資産の部合計	6,633,822	6,578,350	55,472

「事業活動収支計算書」の概要

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
教育活動収入	970,943	教育活動支出	935,726
教育活動外収入	4,933	教育活動外支出	0
特別収入	13,503	特別支出	0
		予備費	-----
事業活動収入	989,379	事業活動支出	935,726
		基本金組入前当年度収支差額	53,653
		基本金組入額合計	0
		当年度収支差額	53,653
		前年度繰越収支差額	△283,315
		基本金取崩額	37,289
		翌年度繰越収支差額	△192,373

学校法人会計について

学校法人は、公益性をもった教育研究の実践主体として、学校の経営を行うことを、その目的としておりますので、一般企業のように営利を活動目的とする法人ではありません。よって、人材育成を含めた教育研究活動の成果を、社会に還元元元させる義務を負っています。

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準(文部科学省令)により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

■資金収支計算書

前年度繰越支払資金2,094,151千円を合わせた収入は、3,184,866千円となり、諸々の支出を差し引き、翌年度繰越支払資金として、2,147,379千円を計上いたしました。

■事業活動収支計算書

事業活動収入計が、989,379千円、事業活動支出計が、935,726千円となり、単年度の収支(基本金組入前当年度収支差額)として、53,653千円となりました。旧式パソコン等の大量廃棄により基本金取崩額が発生し、その結果基本金組入額(学校法人として、教育研究内容の将来的維持・充実に必要な資金を継続的に保持するための資金)が0円計上となり、結果、当年度収支差額としても、53,653千円となりました。

■貸借対照表

資産の部は、有価証券等の増加により前年度比55,472千円増の、6,633,822千円となりました。また、負債の部は、前年度比1,820千円増の、419,322千円となりました。その結果、負債及び純資産の部合計が前年度比55,472千円増の、6,633,822千円となっております。

「資金収支計算書」の概要

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生納付金収入	761,518	人件費支出	549,018
手数料収入	10,058	教育研究経費支出	193,981
寄付金収入	29,409	管理経費支出	53,019
補助金収入	149,892	設備関係支出	10,504
資産売却収入	105,994	資産運用支出	232,400
付随事業・収益事業収入	9,342	その他の支出	32,350
受取利息・配当金収入	4,933		
雑収入	11,346	予備費	-----
前受金収入	118,247		
その他の収入	49,959		
資金収入調整勘定	△159,983	資金支出調整勘定	△33,785
前年度繰越支払資金	2,094,151	翌年度繰越支払資金	2,147,379
収入の部合計	3,184,866	支出の部合計	3,184,866

※作表上、端数調整箇所あり。 ※財務状況については、大学のホームページ(<https://www.st-mary.ac.jp/disclosure/>)でも公開中。

教務課・学生課からのお知らせ

在学生、並びにご家族のみなさまへ

■ 教務課からの各種お知らせについて

在学生並びにご家族の方に対し、単位認定試験の結果(再試験対象となる科目の有無)、成績通知書等をお届けしております。学生の皆さんにとっては既に周知の内容もあるかと思いますが、ご家族の皆さまにとりましても、大学生活や学修に関する情報を共有するものとして活用いただければ幸いです。

■ 「保健師」国家試験受験について (保健師コースの履修について)

本学では、2012年度入学生より「選択制」となっております。保健師国家試験の受験資格を得るためには、看護学部卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される「公衆衛生看護学」に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。保健師コース履修を希望する場合は、2年次後期に申込み手続きを行い、学内選考により履修者を決定します(学生の皆さんには選考試験の概要並びに選考日等詳細については既に説明を終えています)。なお、保健師コース履修には、課程履修費として、別途80,000円が必要になります(平成29年度履修者より適用)。

■ 大学での履修について

科目の履修に際しては、特定の科目については履修要件があることや(※)、上級学年に進級するための要件(進級要件)があること、卒業までに要する科目や単位数(卒業要件)が定められていることなど、予め知っておくべき重要な事項があります。これらは、年度始めに配布する「履修の手引き」に明記されていますので、学生の皆さんは、履修ガイドランスに参加することはもちろんですが、自ら履修に関する情報を収集し、把握するように努めることも必要です。なお、カリキュラム改正等に伴い、履修に関する諸規程も改正となることがあります。入学年度によって適用する規程が異なることがありますので、不明な点が生じた場合は教務課へお尋ねください。【※:基盤臨床系科目や各論実習科目を履修するためには、各々の科目の履修要件(例:科目Bを履修するためには科目Aの試験に合格していることが必要)などを満たす必要があります。】



本学の奨学金制度について

詳細につきましては学生課までお問い合わせください。

☎0942-50-0222

待待奨学金	子弟等奨学金
金額:半期授業料または半期授業料の半額 (令和4年度より) 返還義務:なし 採用人数:若干名	金額:入学金相当額の半額 返還義務:なし
緊急時奨学金	雪の聖母会聖マリア病院 聖マリア奨学金
金額:当該学期の学納金相当額を上限 返還義務なし 採用人数:若干名	金額:年間の授業料相当額を上限 返還義務:卒業時に一括返還※ 貸与期間:修業年間を上限 採用人数:若干名

※聖マリア病院へ就職した場合は、給与より返還

編集後記

「高大接続改革」。急速に変化する予見困難な時代において、新たな価値を創造していく力を育てるために高校教育・大学入試・大学教育を一体的に改革するというものです。ここでは、「学力の3要素(1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力、3.主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度)」を育成・評価することが重要であり、高校教育と大学教育をスムーズに繋ぐためにも、大学入試においてこの3要素を多面的・総合的に評価することが求められています。本学でも、この「学力の3要素」を評価し、アドミッション・ポリシーに合致する学生を獲得するために、昨年度より試験内容を見直し、本学での教育との効果的な接続を図っているところです。

なお、本学は新カリキュラムについて日本看護学教育評価機構より「適合」の評価を受けているように、建学の精神に根差した教育の質をしっかりと担保しています。本学を選んでいただいた在学生のみなさんが充実した学生生活を送り、「カトリックの愛の精神」に基づく看護ケアができる看護職として羽ばたいてゆくことを期待しています。

